加古川市は、瀬戸内海の播磨灘に面し、県下最大の河川である加古川をはじめとする多くの河川、水路、ため池などの水辺空間に恵まれています。また、市の北部には、播磨中部丘陵県立自然公園の山々が連なり、豊かな自然と都市が調和したまちとして発展してきました。

私たちは、この豊かな自然を次代に継承するため、「ひと・まち・自然を大切にし、ともにささえ　はぐくむまちづくり」を基本理念とする加古川市総合基本計画を定め、「うるおいのあるまち」をめざして、取組を進めています。

近年、地球温暖化の進行により、世界の年平均気温は上昇を続け、世界各地で異常気象が発生しています。日本も例外ではなく、気候変動によって引き起こされる台風の大型化や短時間の集中豪雨などの大規模自然災害が毎年のように発生しており、私たちのくらしを大きく脅かしています。

そこで、我が国では、地球温暖化を防止し、国民の生命やくらしを守るため、「２０５０年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」ことを宣言し、積極的な取組が進められています。

そのような中、本市においても、令和４年２月に２０５０年二酸化炭素実質排出ゼロを目指す「加古川市ゼロカーボンシティ宣言」を表明しました。そして令和５年９月には第３次加古川市環境基本計画(改定版)を策定し、さらなる温室効果ガス排出量の削減に係る目標を設定しました。

今後も、時代と共に変わっていく環境課題の動向をしっかり捉え、市民や事業者等と行政が協力・連携して、温室効果ガス排出量の削減をはじめ、ごみの減量・資源化など、様々な環境施策を推進してまいります。

本書は、令和７年度の環境保全に対する取組状況と、ごみ処理・し尿処理業の現況をまとめたものです。皆様方には、本市の環境問題についてご理解を深めていただき、今後、より一層のご指導を賜りますよう、お願いいたします。

令和８年９月

加古川市長　　岡田　康裕